

# 日本比較政治学会 ニュースレター

Japan Association for Comparative Politics

No. 47 October 2021

- 
- |                 |               |
|-----------------|---------------|
| 1. 2021年度総会報告   | 4. 先端研究の現場から  |
| 2. 理事会報告        | 5. 事務局からのお知らせ |
| 3. 企画委員会からのお知らせ |               |
- 

## 2021年度総会報告

2021年6月27日(日)13時より、Zoomを使用してオンラインで開催された。

開会宣言：

- 杉本常務理事より、開催の宣言があり、開始時点における参加者数が38名、議長に一任した者が161名いたとの説明があった。

また、オンライン開催のため、事務局として議長を網谷理事にお願いするとの表明があった。

- 開催校の小嶋理事より、今回のオンライン形式の研究大会に関して報告があった。前日13時30分からの各セッションは130名から140名の参加者、16時からの各セッションは140名強の参加者があった。懇親会は76名以上の参加があり、盛況であった。共通論題は、105名の参加であった。例年の対面方式研究大会と同程度の参加者数である旨の報告があった。

会長挨拶：

- 岩崎会長より、挨拶があった。

まず、開催校の粕谷副会長や小嶋理事ら関係各位に対して謝意が示された。コロナ禍においても、例年と変わることなく学会を開催することができればと考えている。また、引き続き、来年度研究大会の対面開催に協力をいただきたいとの挨拶があった。

### 【議 題】

#### 1. 各種委員会報告

##### (1) 企画委員会

- 馬場企画委員長より、第24回研究大会(オンライン)に関する報告があった。5つの企画委員会セッション、6つの自由論題、1つの共通論題について、関係各位に対する謝意が示された。

##### (2) 年報編集委員会

- 末近年報編集委員長より、年報の編集状況について、8月末から9月にかけて刊行予定であるとの報告があった。進捗に関して若干の遅延があり、コロナ禍におけ

る版元の事情および投稿の編集方針の調整によるものであることが説明された。

- ・ 粕谷副会長（年報編集改革ワーキンググループ座長）より、年報編集改革ワーキンググループの座長として、上神会員、末近理事、馬場次期年報編集委員長、浜中理事と共に答申を作成し、前日に学会ホームページに掲載しているとの説明があった。

答申の内容としては、年報の安定した刊行とクオリティの維持にあるため、査読体制の充実、スケジュールの前倒しを行ったとの説明があった。

#### (3) オンラインジャーナル編集委員会

- ・ 山尾オンラインジャーナル編集委員長より、現在 3 本の論文が査読中であり、2 本が掲載された旨の報告がされた。

#### (4) 渉外委員会

- ・ 中井渉外委員より、1年間更新内容を掲載できている旨の報告があった。また、研究大会の論文については 37 本中、36 本は期限通りに掲載されている旨の報告があった。

#### (5) 選挙管理委員会

- ・ 伊藤選挙管理委員長より、来年度の理事選挙に向けてオンライン投票の可能性を検討しているとの報告があった。

#### (6) ニューズレター委員会

- ・ 西岡ニューズレター委員長が欠席のため、杉本常務理事が委員長のメッセージを代読した。それによると、2020 年 12 月に第

45 号、2021 年 3 月に第 46 号の 2 回発行することができた。学会ホームページに掲載しているのを確認していただければとの報告があった。

#### (7) 研究大会開催校

- ・ 開催校の小嶋理事より、研究大会開催状況について報告があった。

前日からの第 24 回研究大会は、順調に進んでいる、事前の申し込みが 230 名以上、参加者は昨日の時点で 13 時 30 分からの各セッションは 130 名から 140 名、16 時からの各セッションは 140 名強であった。懇親会は 76 名以上の参加を頂き盛況であった。共通論題は 105 名の参加であった。例年の対面方式研究大会と同程度の参加者数である旨の報告があった。

- ・ 網谷議長より、今までの報告に対して、質問がある方は Q&A 機能を使用してくださいとの発言があった。

#### 2. 事務局報告

- ・ 杉本常務理事より、会員状況について、2021 年 6 月 27 日時点での会員数の報告があった。会員数は 627 名であり、前回総会からの入会者は 44 名である旨の報告がされた。

#### 3. 2020 年度決算

##### (1) 2020年度決算報告

- ・ 網谷議長より、総会承認事項となっているので内容を確認の上、承認をお願いする旨の発言があった。
- ・ 杉本常務理事より、2020 年度決算に関し

て説明が行われた。このうち、支出の部の研究大会開催費については、前年度大会において共通論題のみがオンラインで開催されたため、支出が抑えられているとの説明があった。

#### (2) 2020 年度会計監査報告

- ・ 安井監事より、会計監査について報告があった。2021年4月17日、日本大学法学部において、Zoomと対面の両方式を用いて、安井監事・高安監事の2名で監査を行った。具体的には、高安監事は原本の資料を確認し、安井監事はZoomのカメラ越しで確認を行った。領収書等、会計監査用の資料を確認した結果、適正であるとの報告があった。

#### (3) 2020 年度決算承認

- ・ 網谷議長より、総会参加者に承認が求められた。特に異議は出されず、2020年の決算報告は承認された。

#### 4. 2021 年度予算

- ・ 杉本常務理事より、2021年予算の説明があった。理事選挙の年度のため、選挙管理の費用を計上している旨等、各項目について説明が行われた。
- ・ 網谷先生より、総会参加者に承認が求められた。特に異議は出されず、2021年予算は承認された。

#### 5. 監事承認

- ・ 岩崎会長より、安井監事が2年の任期満了を迎えるため、後任として松田憲忠会員（青山学院大学）に依頼する旨の説明

がなされた。

- ・ 網谷議長より、総会参加者に承認が求められた。特に異議は出されず、松田会員の監事就任が承認された。

#### 6. 各種委員長紹介

- ・ 岩崎会長より、各種委員長の紹介がなされた。企画委員長は次年度年報編集委員長（馬場理事）に、企画副委員長は次年度企画委員長（稗田理事）に、合わせて副委員長は近藤康史理事が就任する旨の説明があった。
- ・ 馬場次期年報編集委員長より、年報第24号は「クライエンテリズムをめぐる比較政治学」をテーマに編集予定であること、締め切りが7月末日であることの報告があり、投稿を呼びかける依頼があった。
- ・ 稗田次期企画委員長より、2022年度研究大会の応募に関する報告があった。

#### 7. 奨励賞

- ・ 粕谷副会長より、奨励賞の対象者は前年度に刊行された論文のうち、40歳以下またはテニユアがない者が該当するが、今回は奨励賞の該当者はないとの報告があった。

#### 8. 2022 年度研究大会の日程について

- ・ 岩崎会長より、来年度は対面開催を検討していること、日程は2022年6月26日・27日の予定であることについて報告があった。

#### 9. 2022 年度・2023 年度研究大会の開催校について

- ・ 岩崎会長より、来年度は九州大学での開催となり、山尾理事に協力を依頼していることが報告された。関東・関東以外の地域という区分けでの開催のため、再来年度は関東での開催となる。そのため、山梨大学での開催を予定しており、小松理事に協力を依頼していることが報告された。

閉会宣言：

- ・ 13時30分、網谷議長により、閉会が宣言された。

(事務局)

## 2020年度決算

自2020年4月1日  
至2021年3月31日

収入の部		支出の部	
摘要	金額	摘要	金額
繰越金	¥ 14,277,314	2020年度研究大会開催費	¥ 32,364
2020年度会費収入	¥ 4,923,000	年報費	¥ 1,987,630
雑収入	¥ 38	理事会会議費	¥ -
		年報委員会費	¥ 20,000
		オンラインジャーナル編集委員会費	¥ 20,000
		企画委員会費	¥ 20,000
		ホームページ維持費	¥ 7,784
		事務局費	¥ 1,326,536
		奨励賞選考委員会費	¥ 32,655
		クレジットカード使用手数料	¥ 92,631
		ゆうちょ受払通知票	¥ 4,290
		繰越金	¥ 15,656,462
合計	¥ 19,200,352	合計	¥ 19,200,352

一般会計資産	
	金額
郵便振替口座	¥ 15,206,701
通常郵便貯金	¥ 443,119
現金	¥ 6,642
合計	¥ 15,656,462

会計監査の結果、上記の収支計算書は適正に表示されていることを認める。

2021年4月17日

日本比較政治学会監事

安井 宏樹

高安 健将

## 2021年度予算

自2021年4月1日  
至2022年3月31日

収入の部		支出の部	
摘要	金額	摘要	金額
繰越金	¥ 15,656,462	2021年度研究大会開催費	¥ 620,000
2020年度会費収入	¥ 5,200,000	年報費	¥ 2,100,000
雑収入	¥ 38	理事会会議費	¥ 35,000
		年報委員会費	¥ 20,000
		オンラインジャーナル編集委員会費	¥ 20,000
		企画委員会費	¥ 20,000
		ホームページ維持費	¥ 15,000
		事務局費	¥ 1,700,000
		奨励賞選考委員会費	¥ 35,000
		選挙管理委員会会費	¥ 150,000
		繰越金	¥ 16,141,500
合計	¥ 20,856,500	合計	¥ 20,856,500

## 理事会報告

### 第73回理事会議事録

2021年4月24日（土）14時～16時10分

Zoomによるオンライン会議

出席者：岩崎正洋、粕谷祐子、杉本竜也、網谷龍介、伊藤武、鹿毛利枝子、小嶋華津子、小松志朗、近藤正基、近藤康史、鈴木絢女、杉浦功一、仙石学、高橋百合子、外山文子、中井遼、馬場香織、稗田健志、三浦まり、宮脇健（運営委員）、山尾大、高安健将（監事）、安井宏樹（監事）

冒頭に、岩崎会長より、議事録作成のための会議録画に対する承認が求められた。

#### 【審議事項】

##### 1 2020年度決算について

- 杉本常務理事より、2020年度決算（収入・支出）および一般会計資産の内訳について、資料に基づいた説明が行われた。その後、安井監事・高安監事より、承認が得られたことが説明された。
- 安井監事より、資料に基づいて監査を行ったが、収支決算書が適正であることを確認したことについて報告があった。  
また、年会費のクレジットカード払いの手数料が比較的高額になっているため、制度を再検討すべきではないかとの指摘があった。これに関しては、高安監事も同意した。
- 以上の説明により、2020年度決算案が承

認された（この後、安井監事・高安監事は退出した）。

##### 2 2021年度予算案について

- 杉本常務理事より、2021年度予算案について、資料に基づいた説明が行われた。  
2021年度については、理事選出選挙が行われるため、選挙管理委員会費を計上していることが説明された。
- 以上の説明により、2021年度の予算案が承認された。

##### 3 会員の入退会について（事務局）

- 杉本常務理事より、会員の入退会について、資料に基づいて説明が行われた
- 12名の入会希望者があり、規定の入会書類の提出がなされていることについて説明があった。また、このうち、6名が学生割引対象者であるとの説明があった。
- 7名の退会希望者があったことについて説明があった。
- 3年以上の未納会員が12名、4年以上の未納会員が11名存在し、これら23名が自動的に退会となることが説明された。
- 岩崎会長より、毎年3月末日締めで、3年未納者の退会の徹底を図るように言及があった。
- 以上の説明により、入退会に関して承認が得られた。

##### 4 自由論題と自由企画における非会員共著者の扱いに関する規定について（企画委員会）

- ・ 馬場企画委員長より、自由論題と自由企画における非会員共著者の扱いについて、説明があった。
  - ・ 2021年度研究大会の報告の中には、会員と非会員の共著のものが存在するが、非会員が本学会に入会する利点が存在しないために入会しない例がある。これに関して、企画委員会では、口頭報告の場合、非会員でも共著報告を認めることとした。共著報告の要件を緩和する、もしくは明文化することが、現在の研究環境下では適切であると考えられる。
  - ・ この提案に対し、網谷理事・中井渉外委員長・粕谷副会長より賛同が示され、理事会としても承認が得られた。
- 5 年報編集体制の改革について（日本比較政治学会年報編集体制改革に関するワーキンググループ）
- ・ 粕谷副会長より、年報編集体制の改革について、説明があった。
  - ・ 年報の編集体制には現況において問題があり、それを次の通りに改革する。  
第一に、共通論題のテーマすなわち年報のテーマは企画委員長・編集委員長が設定しているが、これを企画委員会・編集委員会の合議による決定に変更する。  
第二に、編集委員のみを公募論文の査読者とする現行の方式を改め、編集委員は外部査読者の選定・論文査読・査読結果を基とした採否の決定を主な役割とする。  
第三に、編集スケジュールを前倒しし、査読期間を十分に確保する。
  - ・ 末近年報編集委員長より、上記の改革案を既に先行して、部分的に実施しているとの報告があった。
  - ・ 三浦理事より、マイナーなテーマを特集に採用する可能性について問い合わせがあった。これに対して、粕谷副会長より、そのようなテーマの論文についてはオンラインジャーナルで対応する方がよいのではないかという回答があった。
  - ・ 岩崎会長より、年報に携わる人数について問い合わせがあった。これに対して、粕谷副会長より、企画委員会パネルを増やす場合は増員が必要になるかもしれないとの回答があった。
  - ・ 粕谷副会長より、年報改革に関する答申内の表記に関して、「編集委員1名と外部」という表現を「編集委員1名および外部」という表現に変更したいとの提言があった。
  - ・ 稗田企画副委員長より、年報掲載時の筆頭者に関するルールは存在するののかとの問い合わせがあった。これに対して、粕谷副会長より、共著者の順番等は研究グループ内でのルールもあるため、学会としては指定しない方向で考えているとの回答があった。
  - ・ 岩崎会長より、筆頭者ではない著者が学会賞の対象になることもあるのかとの問い合わせがあった。これに対して、粕谷副会長より、特に問題ないとの回答があった。
  - ・ 年報編集体制の改革に関する提言書に関しては、理事会として承認が得られた。
- 6 オンラインジャーナルの補遺について（オンラインジャーナル編集委員会）
- ・ 山尾オンラインジャーナル編集委員長よ

り、オンラインジャーナル投稿論文の補遺について文字数に含めないようにしたいとの提言があった。ただし、無制限では問題があるため、10ページ程度としたいとの提言があった。

この件に関して、理事会として承認が得られた。

- 山尾オンラインジャーナル編集委員長より、補遺に関して、編集の内規か要綱か、もしくは編集委員会の内規にすべきか、問い合わせがあった。

これに関しては、内規および執筆要綱の形で運用されることが承認された。

- 末近年報編集委員長より、年報に関するソースコードをホームページで公開できないかとの問い合わせが存在しているとの言及があった。これに対して、中井渉外委員長より、現在のサーバサービスでどこまで対応が可能なのか見きわめる必要があるとの言及があった。また、稗田企画副委員長より、渉外委員会の負担が大幅に増大するので、著者自身がデータを挙げる方が適切ではないかとの言及があった。

この件に関しては、継続審議となった。

#### 7 次期監事選任について (事務局)

- 岩崎会長より、任期満了を迎える安井監事にかわって、松田憲忠会員が次期監事として推挙された。

これに関しては、理事会より承認が得られた。

#### 8 2023年度研究大会の開催校について (事務局)

- 岩崎会長より、従来関東と関東以外の大学で交互に開催されており、それを踏まえ、加えて理事会構成員でもある小松理事の所属校である山梨大学での開催が提案された。

これに関しては、理事会より承認が得られた。

#### 9 日本比較政治学会会員規則に関する案件について (事務局)

- 日本比較政治学会会員規則に抵触する恐れがある事態が発生した場合の対応について、協議された。

#### 【報告事項】

#### 1 2021年度研究大会の進捗状況について (企画委員会)

- 馬場企画委員長より、1名の辞退者は出たが、基本的には順調に準備が進められているとの説明があった。
- 岩崎会長より、オンライン開催に関する業務委託およびその見積もりについて説明があった(株式会社業務渡航センター)。
- 懇親会に代替するものとして、Spatial Chatの利用が検討されていることが紹介された。

#### 2 研究大会のオンライン開催に伴う参加費助成の見送りについて (企画委員会)

- 馬場企画委員長より、研究大会のオンライン開催により、参加費助成は見送られるとの報告があった。

#### 3 ニューズレター発行について (ニューズレター委員会)

- ・ 西岡ニューズレター委員長が欠席だったため、杉本常務理事より、ニューズレター第46号が発行されたとの報告があった。

4 年報第24号の論文募集について（年報編集委員会〔第24号〕）

- ・ 馬場次期編集委員長より、年報第24号の投稿募集を行っているとの報告があった。  
なお、今回は年報編集に関する新スケジュールで募集を行っていることについても報告があった。

5 日本学術振興会育志賞受賞候補者の推薦について（事務局）

- ・ 杉本常務理事より、日本学術振興会育志賞の推薦に関して、周知が行われた。

6 次期理事会の日程について（事務局）

- ・ 岩崎会長より、次回理事会は2021年6月27日（日）12時15分より開催予定であることが報告された。

7 その他

- ・ 粕谷副会長より、若手奨励賞に関して、本年度は該当者がいないため、投稿を促すようにとの言及があった。
- ・ 伊藤理事より、クレジットカードによる年会費納入に関する手数料について、表面上のコストだけでなく、様々な利点も考慮した上で評価を行うべきであるとの問題提起が行われた。

## 第74回理事会議事録

日時：2021年6月3日（木）メール審議

出席者：岩崎正洋、粕谷祐子、網谷龍介、伊藤武、小嶋華津子、小松志朗、近藤正基、近藤康史、末近浩太、杉本竜也、鈴木絢女、杉浦功一、仙石学、高橋百合子、外山文子、中井遼、西岡晋、西川賢、馬場香織、浜中新吾、稗田健志、牧野久美子、三浦まり、山尾大、宮脇健（運営委員）

### 【審議事項】

1. 年報第24号 投稿締切期限の延長について
  - ・ 馬場年報第24号編集委員長より、応募者が少数であるため、年報第24号の投稿締切期限を延長したい旨、提案があった。
  - ・ 理事からは特段の異議は示されず、理事会として承認された。

## 第75回理事会議事録

2021年6月27日（日）12時10分～12時47分

Zoomによるオンライン開催

出席者：岩崎正洋、粕谷祐子、杉本竜也、網谷龍介、伊藤武、小嶋華津子、小松志朗、近藤正基、近藤康史、鈴木絢女、末近浩太、杉浦功一、高橋百合子、外山文子、中井遼、馬場香織、浜中新吾、稗田健志、牧野久美子、山尾大、宮脇健（運営委員）

委任状：仙石学、西岡晋、西川賢

### 【報告事項】

#### 1. 会員の異動について

- ・ 杉本常務理事より、入会者12名の入会手続きが完了したこと、3名から退会の申請がなされたことの報告があった。

#### 2. 研究大会について

- ・ 開催校の小嶋理事より、理事会開催時点までの研究大会の開催状況の説明があった。

前日13時30分からの各セッションは130名から140名の参加者、16時からの各セッションは140名強の参加者があった。懇親会は76名以上の参加を頂き盛況であった。

共通論題は105名の参加であった。

例年の対面方式研究大会と同程度の参加者数である旨の報告があった。

#### 3. 次期理事選挙の方法について

- ・ 伊藤選挙管理委員長より、オンラインでの投票の可能性も含む、次期理事選挙の方法に関する説明があった。

これに関しては、オンラインと紙を併用するか、メールで投票用紙を送付するか、ハガキで送付をするのかなどの検討事項がある。

また、オンライン投票を次回限りの暫定的措置とするのか、恒久化するのか、業務の効率化などを含めて、今後議論をさせてもらいたいとの報告があった。

- ・ 岩崎会長より、オンライン投票の可能性を検討していくとの説明があった。

#### 4. 総会式次第について

- ・ 岩崎会長より、総会の進行に関する説明

があった。

まず、オンライン開催のため、事務局より網谷理事に総会議長を依頼したとの報告が行われた。

- ・ 続いて、各委員長による報告内容の確認が行われた。

馬場企画委員長より、5つの企画委員セッション、6つの自由論題、1つの共通論題について謝意を示すとの報告があった。

- ・ 末近年報編集委員長より、年報は2021年8月末から9月の刊行予定である旨の報告があった。第一に新型コロナウイルス感染症の流行、第二に編集方式の変更による調整により、刊行が遅延している旨の説明がなされた。

年報に関しては、粕谷副会長より、年報編集改革ワーキンググループの答申が学会ホームページに掲載されている旨の説明がされた。年報の安定的刊行と質の維持が、答申提示の背景にあることが説明された。

- ・ 山尾オンラインジャーナル委員長より、現在3本の論文が査読中であり、2本が掲載された旨の報告があった。論文の補遺についても、今後学会ホームページに掲載する旨の説明がなされた。

- ・ 中井渉外委員長より、この1年間、更新内容を掲載できている旨の報告があった。また、研究大会の論文については、37本中、36本は期限通りに掲載できている旨の報告があった。報告論文は1カ月で学会ホームページから削除する予定であることも会員に周知する予定であることも併せて報告された。

- ・ 伊藤選挙管理委員長より、来年度春の理

事選挙のオンライン投票の方法を検討中である旨の説明がされた。

- ・ 西岡ニューズレター委員長が欠席のため、委員長からのメッセージを杉本常務理事が代読する予定であることが報告された。
- ・ 研究大会開催校の小嶋理事より、先程の通り、参加人数に関する報告と順調に開催されている旨の報告がなされた。
- ・ 事務局より、会員数について報告をするとの説明があった。
- ・ 2020年度決算については、常務理事が説明を行うと報告があった。監査報告は、安井監事が行うとの説明があった。
- ・ 岩崎会長より、松田憲忠会員を次期監査幹事に任命するとの説明があった。
- ・ 各種委員長紹介に関して、馬場理事が年報編集委員長として、年報の投稿募集に関する説明をする予定であるとの報告があった。また、稗田理事が企画委員長として来年度の研究大会の募集を行うとの報告があった。
- ・ 奨励賞については、粕谷副会長より該当者なしとの報告があった。
- ・ 岩崎会長より、来年度研究大会は2022年6月25日・26日に開催するとの報告があった。
- ・ 岩崎会長より、2022年度研究大会は九州大学において、2023年度は山梨大学において開催されるとの報告があった。

#### 【審議事項】

##### 1. 新入会員の承認

- ・ 杉本常務理事より、入会希望者2名について説明があり、理事会において承認された。

##### 2. 次年度企画委員長について

- ・ 岩崎会長より、次年度の企画委員長を稗田理事にお願いをする旨の説明があり、併せて添付資料3に基づき、企画委員会のメンバーをお願いする旨、報告された。本件について承認された。

##### 3. 次年度オンラインジャーナル編集委員長について

- ・ 岩崎会長より、次年度オンラインジャーナル編集委員長について説明があった。  
事務局マニュアルでは任期は1年であるため、2020年度の委員長を山尾理事、2021年度の委員長にと考えていた。だが、歴代の委員長は2年間であるため、現実に即した運用としたい旨、提案があった。この件について承認された。(山尾委員長は次年度も継続、杉浦理事は2022年度から委員長に就任する。)

##### 4. 次回理事会の日程について (事務局)

- ・ 岩崎先生より、現時点では確定できないが、2021年10月30日か、11月6日に開催予定であるとの報告があった。

#### 第76回理事会議事録

日時：2021年8月2日（月）メール審議

出席者：岩崎正洋、粕谷祐子、網谷龍介、伊藤武、小嶋華津子、小松志朗、近藤正基、近藤康史、末近浩太、杉本竜也、鈴木絢女、杉浦功一、仙石学、高橋百合子、外山文子、中井遼、西

岡晋、西川賢、馬場香織、浜中新吾、  
稗田健志、牧野久美子、三浦まり、  
山尾大、宮脇健（運営委員）

**【審議事項】**

1. 年報第24号 投稿締切期限の再延長について

- ・ 馬場年報第24号編集委員長より、応募者が少数であるため、年報第24号の投稿締切期限を延長したい旨、提案があった。
- ・ 理事からは特段の異議は示されず、理事会として承認された。

(事務局)

## 企画委員会からのお知らせ

2022年度研究大会（於九州大学、6月25日(土)・26日(日)予定）

\*開催場所および日程は2021年10月時点での予定です。今後変更もあり得ますのでご注意ください。

### 「自由企画」および「自由論題」の募集

#### 1 「自由企画」の募集

自由企画は、報告・討論・司会をパッケージにしてご提案頂くものです。さまざまな共同研究の発表の場として、また自由な研究交流の場として、自由企画のご応募をお待ちしております。学会のますますの活性化のため、会員の皆様で企画をご相談の上、パネルとしてご応募ください。

#### 2 「自由論題」の募集

自由論題は、単独でご報告される会員のための発表の場です。若手会員の方はもちろん、中堅以上の会員にもご応募いただけることを期待しております。先端的研究や独創的研究をはじめとする、魅力ある自由論題のご応募をお待ちしております。

#### 3 応募資格

自由論題の報告者および自由企画の報告者・討論者・司会者は会員に限ります。ただし、入会申込書を事務委託先に提出した非会員は、会員資格が発生する前でも応募することができます。非会員を含む応募については、入会申込書を事務委託先に提出済みであることを明記してください。

※ 本学会では、同一会員による複数回の報告を認めておりません。ただし、分科会企画で報告される予定の方でも、自由企画の共同報告であれば、1回まで応募を認めます。

※※ ここでいう「報告者」とは「研究大会において登壇する者」を指し、報告ペーパーの筆頭著者と報告者が本学会員であれば、ペーパーの共著者に非会員を含む場合でも報告を認めます。

#### 4 使用言語

自由企画・自由論題ともに、ペーパーと発表で使用できるのは、日本語または英語とします。ペーパーのみ英語、発表は日本語でも差し支えありませんが、発表を英語で行う場合にはペーパーも英語としてください。ペーパーを英語で提出される場合、その報告タイトルは英文としてください。発表を英語で行う場合には、プログラムにその旨を記載しますので、応募段階でお知らせください。

#### 5 応募方法

自由企画・自由論題いずれに応募される場合にも、内容のレジュメ（A4用紙1枚程度、ワードファイルもしくはテキストファイルにて作成）を、2021年12月20日(月)までに、下記宛に電子メールの添付書類としてお送りください。

応募先：企画委員長 稗田健志 E-Mail：thieda@osaka-cu.ac.jp

自由企画・自由論題の応募それぞれにつき、企画委員会において採否を決定の上、お知らせいたします。開催校施設等の問題でセッション数に制約があるため、ご希望に添えないことがある旨、あらかじめご了承ください。また応募が採択された際には、報告用のペーパーを所定の期限までに必ず提出していただくよう、お願いいたします。なお、自由企画・自由論題ともに、応募以降に報告タイトルを変更することはできません。自由企画の共同報告の場合には、応募以降、著者の構成・順番の変更もできません。また、採択された場合、筆頭著者が報告を行ってください。

自由企画につきましては、企画委員会から若干の変更などをお願いする場合があります。自由論題につきましては、テーマや採択数を考慮して、企画委員会でセッションの組み方、司会者、討論者などを決めさせていただきます。ご応募の内容によっては、企画委員会が企画する分科会での報告をお願いする場合があります。

なお、皆様の企画のご参考に供するために、企画委員会企画の内容について、11月6日(土)の理事会で決定後、準備が整い次第、学会ウェブサイトに掲載する予定です。

企画委員会委員長 稗田健志

---

先端研究の現場から

## 質的比較分析 (Qualitative Comparative Analysis)

新川匠郎 (神戸大学)

文脈重視か理論重視か、質的手法か量的手法か。筆者は、この比較政治研究について回る悩みにどちらかという決断を下せない一人である。その中でCharles Ragin が1987年の著書の副題にMoving Beyond Qualitative and Quantitative Strategiesとつけて質的比較分析(QCA)を提起していたことは筆者にとって目を引くものであった。QCAは比較政治学でも既に定着しつつある一方、日進月歩で手法が発展している。名前は知っているが、具体的にどんな手法かよく分からない人も多いのではないだろうか。そこで自身の応用研究への取り組み、早稲田大学の開講科目「質的比較分析 (QCA)」及び神戸大学での関連科目を担当した経験から、表層的だがQCAについて思ったことを書いてみたい。

QCAの第一の特徴は、違う配置構成が同じ結果に至ることを表現できることにある。それぞれの配置構成は各事例で観測できた条件組み合わせに依拠するため、多くの条件を各事例で観測することで、より複雑な結果の説明ができる。筆者のQCA応用の一つは、ドイツのとある州で二大政党が行き詰まり打開のために連立する際、他の制度的条件が組み合わさって影響しているように見えたことが出発点であった。ただし、QCAでは複雑な条件の組み合わせによる全ての事例の個別説明化は推奨されない。とはいえ一先ず各事例を説明する条件を思いつくまま挙げることは筆者の経験上、必ずしも悪いことではなかった。候補に挙げた諸条件は理論的、経験的に検討する過程を通じて整理されることもあったように思われる。

二つ目の特徴は、ある配置構成に所属(非所属)の事例でも典型事例(逸脱事例)に必ずしもならず、別の条件組み合わせによる説明の余地があることである。そのため様々な特徴の事例を含めることで、より多様な結果の説明が可能になる。例えば授業を通じてQCAに興味をわいた学生の一人は、ドイツの州で緑の党の政権参画がどんな条件で生じるのか、多様性を捉えようとしていた。だが解釈困難な膨大な数の配置構成を示すことはQCAの分析結果として不適切である。このような場合、類似した特徴をもつが違う結果の事例を集める比較政治学の方法が有益であるだろう。ただし実際には、①事例に注目して時間や空間、機能的に近似した他事例を探す、②理論に注目して背景や制約条件から事例を絞る、という過程も同時にあったように思われる。

三つ目にQCAは集合論の力を借りて、条件間の関係を必要条件性、十分条件性から整理

できるという特徴がある。これにより、違う結果を異なる配置構成で捉える非対称性を想定できる。筆者なりの応用としては、政権のアカウントビリティがメディアとの関係構築に多様な形で関わる一方、その機能不全が別条件と組み合わせりメディアの分極化を促すという仮説を西欧諸国で探っている。ただし非対称の組み合わせを事例間の集合関係から確認すれば結果にとって必要な理由、十分な理由として正当化できるわけでないだろう。確かにQCAでは、集合論に基づいて条件の程度問題やトリビアルさを測る技術的發展もある。だが、①観測事例で条件が必要、十分として本質的役割を果たしているかを検討する、②理論的に必要、十分に関する指摘がなされうるかを整理する、という過程から仮説として明示化することが大切であったようにも考える。

QCAでは複雑で多面的な事例の特徴把握、事例間の違いと共通点の比較という過程を通じて分析結果が導出される。その際には大きく、①条件を集合関係で捉えるキャリブレーション、②配置構成を確認する真理表、③配置構成を縮約する最小化、という段階を経て解が導かれる。各段階で分析の選択を行い、その選択を積み上げて答えを出すのがQCAの面白味と個人的には考える。だがQCAの授業や後述の「QCA研究会」では、各段階のパラメータ等を少し変更するだけで結果が大きく変わるのであるという頑健性の問題が共有された心配事であったように思われる。QCAの専門家が集う国際的ワークショップに筆者が参加した時には、結果が理論と経験の往復から導かれているので、それを度外視して設定変更することは問題有だという意見が見られた。他方で、設定変更するにしても集合論の特徴から解が同一でなければ頑健でないとはいえないため、導く複数の解の間の集合関係を確認する技術的發展も示されていた。

QCAは比較的新しい手法で批判と反批判を通じて急速に発展を遂げているが、そのアイディアは比較政治学の方法と相通じるものがある。また筆者にとっては文脈か理論か、量か質かという自身の悩みをぶつける一つのプラットフォームでもあった。もちろん、ひな形に忠実に最小化まで行う必要はなく、キャリブレーションや真理表の段階で終える類型学的分析も考えられる。また仮説検証を通じた理論確認だけでなく、仮説の探索や修正による理論発展も並行して念頭に置きQCAを使うのもありえるだろう。もしくはQCAを質的、量的手法と組み合わせることで新たな発見があるかもしれない。

QCAに関心があっても、それを共有する機会や疑問意見をぶつける場はどこにあるのだろうか。国外ではInternational Political Science Association (IPSA) やEuropean Consortium for Political Research (ECPR) でQCAを学べるコースがある。またComparative Methods for Systematic Cross-Case Analysis (COMPASSS) ネットワークでは国際的なQCAワークショップの情報等が提供されている。そして国内でも昨年からは大学院生やポストドク含むQCAの実践報告と討論の場として「QCA研究会」が開かれてきた。これらは異なる関心領域の様々なキャリアの参加者がQCAを使った分析での問題意識を共有する機会であり、多様な意見立場を考えさせる場になると一参加者であった筆者は思っている。

## 事務局からのお知らせ

1. 会員情報の変更や入退会のご希望、会費納入、年報送付に関するお問い合わせは、中西印刷（株）様にお問い合わせください。
2. 異動等による登録情報の変更は、学会ホームページのオンライン会員情報システムから行うことができます。大会関係等の重要な案内はメーリングリストや同システムを通じて行われますので、登録情報更新へのご協力をお願いいたします。
3. 会費の支払いは、原則としてクレジットカード払いとなっております。ただし、ご事情によってご自身で郵便局にある振込用紙にご記入頂いて振込いただくことも可能です。詳細は事務委託先の中西印刷（株）様にお問い合わせ下さい。
4. 学会年報第 23号(2021)『インフォーマルな政治制度とガバナンス』が刊行されました。前年度の会費を納入されている会員の方、ならびに今年度に入会された方にお送りしました。お手元に届いていない場合は、事務委託先の中西印刷（株）様までお問い合わせください。連絡先は以下の通りです

### [事務委託先]

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル  
中西印刷株式会社 学会部 日本比較政治学会事務支局  
TEL | 075-415-3661 FAX | 075-415-3662  
E-mail | jacp■nacoss.com (■を@に変更の上、ご送信下さい)

日本比較政治学会ニューズレター 第47号 2021年10月  
日本比較政治学会 Japan Association for Comparative Politics

〒101-8375  
東京都千代田区神田三崎町2丁目3-1 日本大学法学部・岩崎正洋研究室  
日本比較政治学会事務局  
Email : jacp■jacpnet.org (■を@に変更の上、ご送信下さい)  
ホームページ : <http://www.jacpnet.org/>